



令和元年度
第13期
担い手育成推進
委員会
事務局 発行

担い手通信 〈第四号〉

『おとな食堂』がとけるまで」
～アセスメントからの課題・気づきを
踏まえた活動の立ち上げ～

今回の担い手育成推進委員会では、地域の課題を踏まえた活動の立ち上げ事例として、地域包括支援センターあかね管理者の横濱さんとハピネス茅ヶ崎施設長の古知屋さんから「おとな食堂」のお話を伺いました。

なぜ「おとな食堂」の活動を始めたの？

導入で「地域包括ケアシステム」についてお話がありました。地域包括ケアシステムについては、8月の第2回委員会で土屋先生からお話がありましたね。地域包括支援センターあかねでは、相談を受けた中で地域に必要なだと

思われることについて「地域ケア会議」で示し、地域の各団体（民児協・自治会・地区社協・地区ボラセン・ケアマネ団体・市社協）とチームを組んで活動していくことにしました。
「おとな食堂」は、その中の認知症予防検討チームの活動として始めました



認知症の方への接し方 寸劇「ご飯はまだかね」

認知症の方への接し方について、寸劇で学びました。悪い例とよい例を続けて見ることで、理解が深まりましたね。

認知症の方本人を支えるために、家族への早くからの対応が必要になります。

「おとな食堂」は、介護者同士で話をしたり、その場にいる専門職についでに「相談できる場」として開催しています。



ハピネス茅ヶ崎が 「おとな食堂」の活動を 快諾したわけ



特別養護老人ホームであるハピネス茅ヶ崎では、以前から自治会に加入し、地域の防災訓練に参加するなど、地域とのつながりを持っていました。しかし、特別養護老人ホームという施設の性質上、入居前に施設を知ってもらう機会がなかなかないことが悩みでした。老人ホームの敷居を下げる「と思うている中で、地域包括支援センターからの提案は、渡りに船だった」ということです。社会福祉法人の地域貢献として、地域包括ケアの一翼を担う活動として、継続していききたいとお話でした。



Q & A

地域と福祉施設とのコラボ活動ということで、委員の皆さんからたくさん質問が出ていました。

Q おとな食堂」のボランティア

に参加するきっかけは？

A 毎回チラシに募集を載せている。当日早く来てくれて、配膳などを手伝ってくれる。

Q 運営費はどのように担っているのか？

A 社会福祉法人が全額負担している。

Q 施設として地域に協力してもらっているとはあるか？

A 居場所づくりや世代間交流

については地域とのコラボ、

認知症については専門職との

コラボというように、誰かと

一緒に活動している。

地域と一緒にやっていくこと

はまだまだたくさんある。

「たよれーるリスト」と 「ご提案先リスト」

後半のワークでは、10月の第3回委員会でのワークなども踏まえて、ご自身が地域活動を始めるときに一緒に取り組む仲間づくりについて考えました。

事例提供者のお二人からは、活動は一人ではできないので、誰とやるかを考えて行っている「福祉施設は地域のためにか活動できればと考えているので、ご要望など遠慮なく言っていたきたい」という力強い励ましのコメントをいただきました。



第5回委員会は
2月17日(月)10:00～
12:00に、さがみ農協
ビル2階B会議室で開
催します。
今期の最終回となり
ます。
皆さま、よろしく
お願いいたします！